



第172号
令和6年7月19日
能代市教育委員会
学校教育課
創刊
昭和42年10月10日
題字 元能代市長
鎌田 宏

巻頭言



職場に若い先生が増えています。人数やバランスは違いますが、私が採用の頃の職員室と似てきたように感じます。

「やー今のわけものだば。うましょぐなれ。」と大先輩に気合いを入れた頃が懐かしく思い出されます。昭和バブル期に採用。夢や情熱はあるものの、指導技術が乏しく、失敗続きで反省だらけの日でした。

今は令和の時代。最近、『今のわけもの』はすごいと感じています。メジャーリーグ、サッカーワールドカップ、オリンピック等、世界で堂々と戦う平成生まれの日本人からはたくさんの元気や勇気をもらっています。学校現場も然りです。探究型授

『昔のわけもの』の独り言

能代市立能代第一中学校

校長 嶋田 正明

業やICT活用に前向きに挑戦し、子どもたちと丁寧に向き合って、職場に新しい風を吹かせている若手教員を見ていると頼もしく思います。まもなく令和生まれの子どもたちが入学してくる教育界。多くの課題を抱えていくことになると思います。子どもたちが、「将来、〇〇先生のような教師になりたい。」と夢みるような学校でありたいものです。昭和生まれの経験知と実績、平成生まれの勢いと柔軟性が融合して、力を合わせれば、より魅力ある学校になることでしょう。

目の前の児童生徒が、心豊かでたくましい『未来のわけもの』へと成長し、自立していく姿を願いながら。

能代市の授業づくり ～本年度の重点～

第四小学校

教頭 納谷 則子

みんながのびる
みんなでのびる

「みんながのびる みんなでのびる」を合言葉に、全員「参加」の授業づくりと「聞き合い」を手立てとした学びに努め、「学び合い高め合う学習集団」を目指している。

六月、大塚麻理子教諭による六年国語の研究授業があった。

「参加」課題に対して根拠を明ら



輝きの場面



「笑顔でゴール！走りきったぞ！」

一人一人が輝いた運動会より、

湊城西小学校

かにして自分の考えをもてるように個の時間を確保。考えに自信がもてるように声かけしながら机間指導。児童みんなが積極的に発表できた。

「聞き合い」グループによる互いの考えを受けて返す活動。友達の考えと自分の考えをつないで考えをより確かなものにしていった。学級全体で課題解決に向かった。

今後も児童自ら学ぶ力を発揮しながらよりよく課題解決していくよう研鑽していく。



東雲中学校
教諭 菊地 一成

これが私の 指導法

私は先輩や同僚から学んだ二つのことを実践している。

一つ目は、丁寧な保護者対応を心掛けること。学校での出来事を保護者に伝えようと電話をする時、「学

校で何か問題起こしましたか…」という感じの反応が多いのではないかと。私が親の立場で家に電話が来たときも、「何やったの？」と心の準備をして応対してしまう。だからこそ、「〇〇さんが学校でとてもよいことをしたので、たくさん褒めました。ご家庭でもたくさん褒めてあげてください。」といった内容を積極的に伝えていきたいと考えている。

また、部活動で生徒が指や足を痛めた際は、迎えに来ている保護者にできるだ

け顔を合わせてケガの状況や応急処置のこと、学校管理下での出来事で申し訳ないことなどを直接伝えるようにしている。

二つ目は、つながりを大事にして授業に活かすこと。能山研の数学部会で行われる歓送迎会・懇親会では、先輩方から授業のコツや効果的な指導法等についての貴重なお話を聞くことができた。そこで広げた人脈もその後の自分に大きなプラスとなっている。同一教科としての情報交換の他に、とても有効なのが、他教

科の先生の授業を参観すること。新たな発見があり、大変勉強になった。

「先生、あのときは迷惑かけました。今、〇〇で働いています。」かつての教え子に声をかけられることがある。また、「〇日にバスケの練習に参加してもいいですか?」と連絡をもらうことがある。人間の成長に関わることでできるこの職業は、たくさんの魅力と可能性があるとつくづく思う。



淳城南小学校

教諭 藤田 千登勢

昨年度、本校は国立教育政策研究所が行っている「MEXCBT」の指定を受け、オンライン上で答える問題づくりに取り組みました。そして、その問題を活用した授業を提示し、笠井健一文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官にご指導していただきました。その際の授業づくりに関する指導助言の一部を紹介します。

・分からない子にも分かる授業をすることが第一にやってみよう。

・つまずきを先生が知っていないといけない。この子にどう教えたらかかってもらえるだろうと考えるていく。つまずいている子が

「あ、そうか。」と言える学び合いであってほしい。

・一人の子に全部説明させない。できる子が言う「同じです」で終わらず、それでも分からない子がいるので、「同じこと言える?」と問い、「友だちに説明してみよう」と自分で説明する時間をとる必要がある。

・評価問題については、C規準の子をB規準にするために、自力解決のときにC規準の子をどう支援するか、意識して授業したい。

笠井調査官は一貫して、分からない子に寄り添う、つまずきからどのように立ち直らせるかといった、個を大事にする授業づくりを強調されていました。

今年度、本校は、そのことを生かしつつ、昨年度の県学習状況調査で浮き彫りになった課題を克服するべく、研究を進めることにしました。研究主題は、「ともに学ぶ楽しさを味わう児童の育成」→「分かった」「できた」を実感

できる 算数の授業づくりの工夫を通してです。

今年度は、研究教科を算数に絞り、ねらいを達成するための逆算思考の授業づくりに重点を置いて研究を進めます。逆算思考の授業づくりでは、「ねらいを達成する」とつまり「評価問題ができる」というようにすることを目指します。そのために「みんなが分かる」学び合いをすることが求められます。

「みんなで分かる楽しさ」や「自分もできる喜び」を感じられるような一時間一時間の積み重ねによって自己肯定感が高まり、学校という集団の場で「ともに学ぶ楽しさ」を味わうことができると考えます。

①「分かる」ための準備の手立て

○既習事項（レディネス）の習得
○学習ルールの定着（聴き方・話し方）

○学習環境の整備

②みんなが「分かる・できる」授業づくり

○ねらいを明確にした逆算思考の授業プラン

③「できる」を実感させる手立て

○自己調整力を高める。（練習問題の取りの工夫）

教師の幅広い年齢構成の観点から、それぞれの実践的指導力を習得・向上・充実できるように教師力を高め合う意識をもち、新たな南小スタイルの授業を模索していきたいと考えています。

編集後記

能代宇宙イベントの記念事業のため、各校にモデルロケットの製作を依頼しました。製作の様子を参観させていただきましたが、どの子も夢中で活動していました。8月18日には、約二千機のモデルロケットが一斉に打ち上げられました。ぜひ見にお出かけください。（A）